



ジャーマンチューナー「A.R.T」とは?

ドイツのイムレ・アルバ(氏)が興したチューニングブランド。これまでメルセデス・ベンツのプレミアムSUV(GクラスおよびG55クラス)に特化した各種チューニングメニューを提供し、世界中で人気を博してきた。高級的なデザインを基本としつつ、ある種の野性味も適切に絡み込んでいくのがA.R.T.の特徴と見えるだろう。本文中にもあるとおり最近ではメルセデス・ベンツ以外のチューニングにも着手し、レンジローバーとボグシエ・カイエン用のプログラムもリリースしている。

これまででは、メルセデス・ベンツGクラス・チューニングのスペシャリスト」と形容することもできたドイツのA・R・T。そのA・R・Tがついにメルセデス以外のプレミアムブランドも手がけることになった。その第一弾が、元の東京オートサロン2014にも出品された新型レンジローバー・ Vogueをベースとした二品だ。

ROAD BUSTER STYLEと名付けられたこのボディキットは、基本的にフロントスポイラーとリアスカートの、リアルーフスポイラーの3アイテムで構成されている。フロントスポイラーは、センターおよび両サイドにて大きく口を開けているアグレシブなエアダクトが、ともすれば落ち込みすぎている印象もある新型レンジローバーに輝きを付与。さらに、サイドエアダクト下部に配される3連フォグが、ある種の妖艶さをそこに加えているのが絶妙だ。

リアセクションでは、レシーなメッシュ状のグリル、そして3本のエッジの利いたセンターフィンに目を奪われる。リアスカートをこれ以上大型化し、同時にリアルーフスポイラーもさらなる大型化を図れば、率直に言うってやや下品な印象になってしまうだろう。英国のカントリージェントルマンあるいはシティの全職マン御用車であるレンジローバーに「Road Buster」という単語はそぐわないものだ。

しかしA・R・Tは、さすがにそのあたりの間合いを確実に見切っている。伝統という名の安穩な世界に隔りがちなレンジローバーに野性味を与えはするが、決してRoad Busterにはならないサイズ感とデザイン。このあたりの力量とセンスが、Gクラスでも見られたA・R・Tの真骨頂だ。

A・R・Tがリリースすることになったレンジローバー用チューニングキットは、今回紹介したノーマルボディの「ROAD BUSTER STYLE」のほか、ワイドボディとなる「ROAD BUSTER」も存在する。どちらを選ぶかはもちろんオーナーの趣味嗜好によりさまざまだが、少なくとも雷えるのは、ノーマルボディのROAD BUSTER STYLEであって追力とインパクトは十分だということ。むしろ、やや控えめにも見えるノーマルボディのほうが、レンジローバーというクルマ本来のキャラクターには合っているように思われる。

いずれにせよ、新型レンジローバーの端正なたたずまいは最高ではあるが、そこに何らかの物足りなさというか渴望を感じるのであれば、A・R・TのROAD BUSTER STYLEは最高レベルの提案のひとつだ。

TUNING MENU A.R.T RANGE ROVER VOGUE ROAD BUSTER STYLE

- フロントスポイラー
- リアスカート
- リアルーフスポイラー
- mono ART 1 100 x 22inch



大膽に模造された多数のダクトが印象的なフロントスポイラーとリアスカート。固構成のためかさばり感を重視するのではなく、あえて武者の武器のようなラインを多数重ね合わせることで、独特の迫力が生まれている。4本出しのマフラー・エンドは、いわゆるマフラー・カッターだが、この場合はマスト・ハブ・アライメントだ。ホイールは22インチ monoART1。スポークの端正なラインが、全車を上品にもとめうるうえで決定的な役割を果たしている。

TUNING CAR 2014

A.R.T. ROAD BUSTER STYLE

Gクラスチューニングの雄、A.R.Tがついにレンジローバーに進出

A.R.T.といえば、メルセデス・ベンツGクラスを思い浮かべる方も多いだろう。実際にそのチューニングモデルは数多く市場流通している。そんなA.R.T.が、レンジローバーを手掛けることになったことをご存じだろうか?ここでは撮影車をサンプルに、そのメニューと魅力をお伝えすることしよう。

文●伊藤正行
text by DATE Masayuki
写真●大寺吉山
photos by DANGO Kazuo
取材協力●アカー・コーポレーション <http://www.lager.co.jp>

